

平成28年度  
がん対策施策報告書

平成29年6月

和歌山県



# 目次

I	これまでの経緯 .....	1
II	平成28年度にがん対策の推進に関し県が講じた施策 .....	3
	1 がんの予防 .....	3
	2 がんの早期発見 .....	5
	3 がん教育・普及啓発 .....	7
	4 がん医療 .....	12
	5 がん登録 .....	17
	6 がん研究 .....	18
	7 がんに関する相談支援と情報提供 .....	18
	8 がん患者の就労を含めた社会的な問題 .....	19
	9 その他 .....	20
III	計画に掲げる全体目標の達成状況 .....	23
◆	参考資料 .....	24

この報告書は、和歌山県がん対策推進条例第31条の規定に基づき、平成28年度にがん対策の推進に関し県が講じた施策について取りまとめたものである。

【参考】和歌山県がん対策推進条例（抜粋）

（年次報告）

第31条 知事は、和歌山県がん対策推進計画に基づく施策について、毎年、実施状況を取りまとめ、速やかに県議会に報告するとともに、適切な手段を用いて県民に公表する。

## I これまでの経緯

がんは、昭和 56 年に日本人の死亡原因の第 1 位となっており、本県においては昭和 54 年度以降、死亡原因の第 1 位となっている。

このような中、平成 19 年 4 月 1 日に施行された「がん対策基本法」及び同法に基づく「がん対策推進基本計画」の基本理念を踏まえ、本県では、平成 20 年 4 月にがん対策基本法第 11 条に規定される都道府県計画として「和歌山県がん対策推進計画」を策定した。

平成 24 年 12 月には、「がん患者を含む全ての県民がいきいきと生活することができる地域社会の実現」、「県民自ら、がんに関する理解と関心を深め、互いに支え合い、力を合わせるにより、みんなで一体となったがん対策の推進」を目指して、「和歌山県がん対策推進条例」が全議員賛成のもと議員提案条例として制定された。

本条例は、基本理念である「七位一体の取組」を定め、行政機関（県・市町村）、県議会、県民、保健医療関係者、教育関係者、事業者の役割を明らかにするとともに、報道関係者と一致協力した連携のもとで、実効性のあるがん対策を総合的にかつ効果的に推進することを目的としている。

また、平成 25 年 4 月には、がん教育・普及啓発やがん研究、がん患者の就労を含めた社会的な問題といった新たな課題等を踏まえた「第 2 次和歌山県がん対策推進計画」を策定した。

当計画では、県条例の基本理念を踏まえ、がん死亡率の減少を全体の目標として、がん患者を県民全体で支え、がん患者ががんと向き合いながら社会生活を続けられるように「がんになっても安心して暮らせる支援体制の構築」を目指すべき方向として定めている。

この基本方針を踏まえた上で、予防、早期発見、教育、医療、がん登録、研究、相談支援及び情報提供、がん患者の就労を含めた社会的な問題について分野別に目標を定め、総合的かつ計画的ながん対策の推進を図っているところである。

さらに、計画の策定に併せて、がん対策分野における一層の施策推進を図るため、平成 25 年 4 月に、福祉保健部健康局健康推進課の「疾病対策班」の名称を「がん・疾病対策班」に変更するとともに、人員を増員し施策の推進体制の強化を図ってきた。

一方、平成 28 年 12 月に「がん対策基本法」が改正されたことから、平成

29年3月に「和歌山県がん対策推進条例」についても規定の整備を行った。

## 【全体目標】がんによる死亡者数の減少

- ・10年間でがんの年齢調整死亡率（75歳未満）の25%減少  
「がんの予防」「がんの早期発見」「がん医療の均てん化」などがん対策を一層充実し、全国水準までがんによる死亡者を減少させることを目標とする。

	H17	H27（目標）	目標減少率
和歌山県	98.5	73.9	25%
全国	92.4	73.9	20%

※ 年齢調整死亡率は人口10万対の数値

### 〈参考〉

平成19年	4月 1日	がん対策基本法施行
	6月15日	国のがん対策推進基本計画（～平成24年3月）
平成20年	4月 1日	和歌山県がん対策推進計画（～平成25年3月）
平成24年	6月 8日	国のがん対策推進基本計画改定（～平成29年3月）
	12月28日	和歌山県がん対策推進条例施行
平成25年	4月 1日	第2次和歌山県がん対策推進計画（～平成30年3月）
平成27年	12月22日	国のがん対策加速化プラン策定
平成28年	1月 1日	がん登録等の推進に関する法律施行
	12月16日	がん対策基本法改正
平成29年	3月23日	和歌山県がん対策推進条例改正

## Ⅱ 平成28年度にがん対策の推進に関し県が講じた施策

本年度に県が講じた施策は、それぞれ次のとおりである。

### 1 がんの予防

がんの原因は、食生活、運動等の生活習慣、喫煙（受動喫煙を含む）、ウイルスや細菌への感染などが大きく関わり、生活習慣の改善や感染予防により予防可能な要因も多くあることから、以下の施策を講じた。

#### (1) 生活習慣改善対策

ア 「わかやま健康と食のフェスタ」を開催し、野菜・果物摂取量の増加、食塩摂取量の減少等啓発を実施した。

開催日：平成28年10月9日

場 所：和歌山ビッグウエーブ

イ 企業が実施したイベントに出展し、生活習慣に関するパネル展示や乳がんの自己触診が体験できる乳房モデルの展示を行うとともに、啓発物資の配布等を行った。

(ア) 「2016 わかやま健康フェア」

開催日：平成28年4月17日

場 所：和歌山ビッグ愛

主催者：エバグリーン廣甚株式会社

(イ) 「ココロとカラダの健康フェア」

開催日：平成28年6月18日

場 所：近鉄百貨店和歌山店

主催者：株式会社近鉄百貨店

ウ 野菜摂取量の増加を目的とした啓発用ウエットティッシュを作成し、各二次保健医療圏で配布するとともに、食生活改善推進協議会と連携し、食塩摂取量の減少を目的とした啓発活動を実施した。

エ 県民の生活習慣病の予防及び健康寿命の延伸を図るため、がん検診の受診や受動喫煙防止対策、メンタルヘルスに関する取組など、働く者の健康づくりに関する取組を積極的に実施している県内事業所を認定する「わかやま健康推進企業」制度を創設した。

認定企業数：18社

オ 運動習慣を身につける動機付けとして、二次保健医療圏においてウォーキングイベントを開催するとともに、県民が楽しく運動習慣の定着を図る仕組みを検討した。

カ 健康や医療に関する様々なデータについて整理・分析を行い、専門的な見地から本県の健康増進に関する施策提言を検討する目的で「健康わかやま推進提言委員会」を開催した。

## (2) たばこ対策

ア 健康への正しい理解を目的に、世界禁煙デー（5月31日）や禁煙週間（5月31日～6月6日）での街頭啓発を、各二次保健医療圏で実施した。

イ 禁煙希望者への情報提供等を目的に、県の健康推進課ホームページで禁煙外来、禁煙サポート薬局の情報提供を実施するとともに、「わかやま健康と食のフェスタ（再掲）」では、医師や保健師による禁煙相談や肺年齢測定などを実施した。

ウ 学校での教育を目的に、二次保健医療圏地域・職域連携推進協議会の委員が講師となり、小中高校での防煙教室を34回実施し、2,082名が受講した。

エ 喫煙との関わりが指摘されている乳幼児突然死症候群（SIDS）の発症防止のため、妊婦やその家族の禁煙の必要性について、「お母さんと赤ちゃんの健康ガイド」に掲載し、全妊婦に情報提供を実施するとともに、啓発用リーフレットを市町村、保健所、医療機関に送付した。なお、市町村ではリーフレットを用いて、赤ちゃん訪問時や母子健康手帳配布時に禁煙指導を実施した。

オ 受動喫煙について、「世界禁煙デー（再掲）」や「わかやま健康と食のフェスタ（再掲）」で啓発を行うとともに、乳幼児健診で保護者に対してリーフレットを配布した。

また、地域・職域連携推進事業の参加者（成人）に対して、リーフレットを配布し、受動喫煙について説明を行った。

## (3) 感染に起因するがんへの対策

ア 県内27市町村が肝炎ウイルス検診の個別勧奨を実施した。

また、肝炎ウイルス検査については、各県立保健所及び県内約450か所の協力医療機関で、無料で受検できる体制を構築しており、364件実施した。

これらの結果、陽性者にはウイルス肝炎治療に係る専門医療機関を受診するよう保健所、検査実施医療機関を通じて指導している。

イ 肝炎の医療費助成制度は、平成26年9月から、インターフェロンフリー治療が助成の対象に追加されるなど、対象の拡大が図られている。

受給者証の交付実績については、インターフェロン治療4件、インターフェロンフリー治療520件、核酸アナログ製剤治療606件となっている。

ウ 肝疾患診療連携拠点病院である県立医科大学附属病院と国立病院機構南和歌山医療センターの2か所に開設している肝疾患相談支援センターにおいて、治療や医療費助成制度等に対する相談を無料で実施するとともに、県民公開講座、医療従事者に対する研修会、イベント等での出張型検診、出前相談等の事業を実施した。

エ 成人T細胞白血病（ATL）などの対策のため、県立保健所で希望者に対して無料のHTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）抗体検査を3件実施した。

また、妊婦健診で実施しているHTLV-1抗体検査について、「お母さんと赤ちゃんの健康ガイド（再掲）」に掲載し、市町村を通じて母子健康手帳配布時に全妊婦に対して情報提供を実施した。

さらに、県の母子感染予防対策を推進するため、和歌山県HTLV-1母子感染予防対策マニュアルを作成した。

オ 胃がん予防対策のため、40、45、50歳の希望者に対するピロリ菌検査にかかる費用の補助を、15市町に対して実施した。

## 2 がんの早期発見

がんによる死亡を防ぐためには、がんにならないようにすることが重要である。

しかし、がんの予防のため生活習慣等の改善を心がけたとしても、全てのがんを予防することは困難である。

一方、進行していない初期の段階でがんを発見し、適切な治療を行うことが出来れば、治癒する可能性は高い。がんを早期の段階で見つけることができるがん検診は、がんの死亡率を下げるのに非常に有効な方法である。

そのため、がんの早期発見やがん検診の受診率の向上について、以下の施策を講じた。

### （1）がん検診の普及啓発

ア 市町村と連携してがん検診の受診率を向上させる目的で、がん検診推進支援事業を実施し、検診対象年齢者に対し、胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん（以下、「5がん」という。）の検診の個別受診勧奨にかかる費用の補助を市町村に対して実施した。

イ がん検診の重要性について、よりわかりやすく県民に伝えるため、が



ん検診受診促進啓発まんがを作成した。

ウ 10月のがん検診受診率 50%達成に向けた集中キャンペーン月間に、県立図書館においてのぼり等で啓発を行った。

また、県立情報交流センター ビッグ・ユーにおいて、DVD 等を活用したがん検診の啓発を行った。

エ 「わかやま健康と食のフェスタ（再掲）」において、がん検診の啓発物資等の配布を行った。

オ 各地域において、健康推進員によるがん検診の受診促進を行った。

## (2) がん検診の体制の強化

ア 肺がん、子宮頸がん検診について、検診実施要領の改正を行った。

イ 子宮頸がんについて、精密検査協力医療機関登録要領の制定を行い、5がん各々の精密検査協力医療機関一覧を、健康推進課ホームページ内に開設している「わかやま がんネット」に掲載した。

ウ 5がんの検診について、各市町村のプロセス指標や事業評価の状況を各市町村に情報提供した。

また、5がんについて、集団検診実施機関毎のプロセス指標や事業評価の状況を各市町村に情報提供した。

エ 市町村のがん検診担当者の研修会を実施した。

開催日：平成28年5月27日

場 所：和歌山県自治会館

オ がん検診従事者の技術向上を目指して、以下の研修会を開催した。

### (ア) 胃がん内視鏡検診従事者研修会

a 開催日：平成28年8月20日

場 所：ガーデンホテルハナヨ

参加者：45名

b 開催日：平成28年8月21日

場 所：和歌山県 JA ビル

参加者：71名

### (イ) 低線量肺がん CT 検診従事者研修会

開催日：平成28年10月29日

場 所：県立医科大学生涯研修センター

参加者：48名

### (ウ) 乳がん検診従事者研修会

開催日：平成29年2月25日

場 所：プラザホープ

参加者：77名

(3) 低線量肺がんCT検査

がん検診として実施されている胸部エックス線検査に加えて、がん発見率が高いとされている低線量肺がんCT検査の費用の補助を、4市町に対して実施した。

(4) 検診車・検診機器整備

県内において広域的に集団検診を実施している「公益財団法人和歌山県民総合健診センター」に対し無償貸与を行っている検診車について、検診機器のデジタル化を実施するため、胸部及び胃部検診車各1台の買い替え及び胃胸部検診車の機器更新を実施した。

県が保有するがん検診車の半数程度が10年以上経過していることから、効果的で効率的な検診が図られるよう、今後も計画的な整備・更新を行っていく。

### 3 がん教育・普及啓発

健康に関する意識を高めるには、子どもの頃からの教育が重要であり、がんに関する正しい知識を持ち、がんを身近な問題として捉えることにより、がんを予防する生活習慣を身につけることが可能になると考える。

さらに、県民一人ひとりががん予防や早期発見につながる行動を行い、がんに罹患しても患者やその家族が正しく理解し向き合うことができるように、がんに関する普及啓発活動を推進していく必要があることから、以下の施策を講じた。

(1) 和歌山県がんの教育総合支援事業を実施し、以下の学校でモデル授業を実施するとともに、和歌山放送の「教育の窓」で広報を行った。

高等学校：県立橋本高校

中学校：和歌山市立明和中学校、同河北中学校、  
湯浅町立湯浅中学校

小学校：紀の川市立上名手小学校

(2) 学校での教育を目的に、二次保健医療圏地域・職域連携推進協議会の委員が講師となり、小中高校での防煙教室を34回実施し、2,082名が受講した（再掲）。

(3) 喫煙の悪影響等も含んだ各学校の薬物乱用防止教室の開催を推進し、指

導者の資質向上を目指した「薬物乱用防止教室研修会」を開催した。

- (4) 各学校の実情や児童生徒の発達段階に応じた「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室」を開催した。
- (5) がん征圧・がん患者支援を掲げ、和歌山で開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016 わかやま」を後援するとともに、和歌山市、公益財団法人和歌山県民総合健診センターと連携して出展し、がん検診等の啓発や啓発物資の配布等を行うとともに、乳がん検診を実施した。  
期 間：平成28年5月14日～15日  
場 所：和歌山公園砂の丸広場  
主 催：公益財団法人日本対がん協会  
リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016 わかやま実行委員会
- (6) 早期発見・早期治療が重要であることを周知するため、テレビ和歌山で15秒スポットCMを30回実施した。
- (7) 10月のがん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間に、県立図書館においてのぼり等で啓発を行った（再掲）。
- (8) 「わかやま健康と食のフェスタ」において、がん検診の啓発物資等の配布を行った（再掲）。
- (9) 「2016 わかやま健康フェア（再掲）」及び「ココロとカラダの健康フェア（再掲）」において、がんに関する情報提供や啓発物資の配布等を行った。
- (10) 若年層への普及啓発として、和歌山大学で開催された和太祭で、まんがを使った子宮頸がん検診の啓発を実施した。  
開催日：平成28年11月19日  
場 所：和歌山大学構内
- (11) 県民の生活習慣病の予防及び健康寿命の延伸を図るため、がん検診の受診や受動喫煙防止対策、メンタルヘルスに関する取組など、働く者の健康づくりに関する取組を積極的に実施している県内事業所を認定する「わかやま健康推進企業」制度を創設し、18社を認定

した（再掲）。

- (12) がんについての情報や和歌山県の医療等について、総合的に情報提供を行う「わかやま がんネット」のリニューアルを行い、よりわかりやすいがんに関する情報提供を行った。

（「わかやま がんネット」ホームページアドレス

[http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/041200/h\\_sippe/gannet/00.html](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/041200/h_sippe/gannet/00.html))

- (13) がんについての情報等について、県民がより理解を深められるように、県立図書館において以下の施策を実施した。

ア 特別コーナーとして設置している「がん」関係図書コーナーについて、新刊図書を追加するなど約700冊のがん関係図書やがん専門雑誌の配備を行うとともに、ホームページ上で新着関係資料の内容説明などの紹介を行った。

また、目的別に調べることができるように案内資料を設置した。

イ がん関係のパンフレットの配布や啓発ポスター、関係トピックスの掲示、県内のがん関連情報等のホームページでの紹介を行った。

ウ がんに対する理解をより深めるため、以下の県民参加型の取組を実施した。

- (ア) がん患者やその家族、医療関係者等がんに関わる方が集まって想いを語り合う場として「図書館いきいきサロン」を開催した。

開催日：毎月第1日曜日 14時～16時

場 所：県立図書館2階

- (イ) がん患者・家族、県民のための公開講座として、県立医科大学附属病院患者支援センターと県立図書館の共催により、「乳がんが教えてくれた私らしい生き方」を開催した。

開催日：平成29年1月29日

場 所：県立図書館メディア・アート・ホール

エ がんやがん検診について、以下の啓発を行った。

- (ア) 10月のがん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間に、がん検診啓発のぼり等で啓発を行った（再掲）。

(イ) 県立医科大学附属病院と連携し、がん関係のポスター掲示やパンフレットの配布等を行った。

また、県立医科大学図書館三葛館と連携を図り、より細かい情報提供を行った。

オ 県立図書館のがんに関する取組について、以下の報告を行った。

(ア) 国立研究開発法人国立がん研究センターと第一生命株式会社の共催で開催された、市民公開セミナー「「がん」の時代を生きる」で、がん関係図書コーナーの紹介を行った。

開催日：平成28年10月6日

場 所：県民文化会館

(イ) 図書館&がん相談支援センター連携ワークショップ(北日本地区)「いつでも、どこでも、だれでもが、がんの情報を得られる地域作りの第一歩」で報告を行った。

開催日：平成29年1月23日

場 所：いわて県民情報交流センター(アイーナ)

主 催：国立研究開発法人国立がん研究センター

(14) がんに関する情報をわかりやすく書いた書籍「がん患者の社労士が書いた 自分らしい「がん」との付き合い方」について、著者から県へ寄贈があり、県立高校図書館等で配架を行った。

(15) 県立情報交流センター ビッグ・ユーにおいて、DVD等を活用したがん検診の啓発を行った(再掲)。

(16) 県民のがんに対する理解を深めていく目的で、以下の事業に対して後援を行った。

ア ピンクリボン着用週間 in 紀南 キャンペーン

目 的：ピンクリボン着用によるピンクリボン運動への参加を通じて、乳がん検診受診への意識向上及びきっかけづくり

期 間：平成28年4月1日～4月10日

主 催：ピンクリボン紀南

イ 2016 わかやま健康フェア(再掲)

目 的：がんを含めた県民の予防に対する意識向上と健康増進

開催日：平成28年4月17日

主 催：エバグリーン廣甚株式会社

ウ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016 わかやま(再掲)

目 的：がん制圧や、がんを取り巻く環境整備の大切さを、社会と和歌山県民全般に広く訴える

期 間：平成28年5月14日～15日

場 所：和歌山公園砂の丸広場

主 催：公益財団法人日本対がん協会  
リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016 わかやま  
実行委員会

エ がん制圧月間

目 的：がんに対する正しい知識とがん検診受診率向上を広くア  
ピールする

期 間：平成28年9月1日～9月30日

主 催：公益財団法人和歌山県民総合健診センター（日本対がん  
協会和歌山県支部）、一般社団法人和歌山県医師会

オ 市民公開セミナー「がんの時代を生きる」

目 的：がんに関する正しい知識の普及啓発及び情報窓口の周知

開催日：平成28年10月7日

場 所：県民文化会館

主 催：国立研究開発法人国立がん研究センター、第一生命株式  
会社

カ ラジオドラマ「明日への扉」

目 的：がん相談支援センターの認知度向上

放送日：平成28年9月26日～10月7日

放送局：WBS 和歌山放送

主 催：国立研究開発法人国立がん研究センター、第一生命株式  
会社

キ ピンクリボン紀南2016 熊野本宮大社ピンクライトアップ

目 的：乳がん早期発見の重要性を周知、乳がん検診受診率向上

開催日：平成28年10月9日

場 所：熊野本宮大社 旧社地大斎原大鳥居

主 催：ピンクリボン紀南

ク 紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進イベント

「大切な人の『想い』とともに・・・」

目 的：医聖華岡青洲の志を引継ぎ、乳がんの早期発見、早期治  
療、検診受診率の向上を目指す

開催日：平成29年2月5日

場 所：ホール田園

主 催：紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部

#### 4 がん医療

がんによる死亡者数の減少のためには、質の高いがん医療を提供することが必要である。

そのため、県内のがん診療連携拠点病院（以下、「拠点病院」という。）や県がん診療連携推進病院（以下、「推進病院」という。）の診療機能、治療水準の向上と連携・協力体制を強化し、専門的な医療従事者の養成や多職種によるチーム医療を推進するため、以下の施策を講じた。

##### （１）がん診療体制の整備・充実

がん診療体制の整備・充実については、国の「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針（以下、「指針」という。）」に基づき、拠点となる病院が二次保健医療圏毎に指定され、指定要件を満たす病院がない二次保健医療圏については、県で独自に基準を定めて推進病院を指定し、県内のがん診療の均てん化に取り組んでいる。

なお、拠点病院については、平成26年1月に国の指針が改正され指定の要件が強化されたが、県内の既指定の拠点病院については全て指定更新されている。

県内の拠点病院及び推進病院について、以下の施策を実施した。

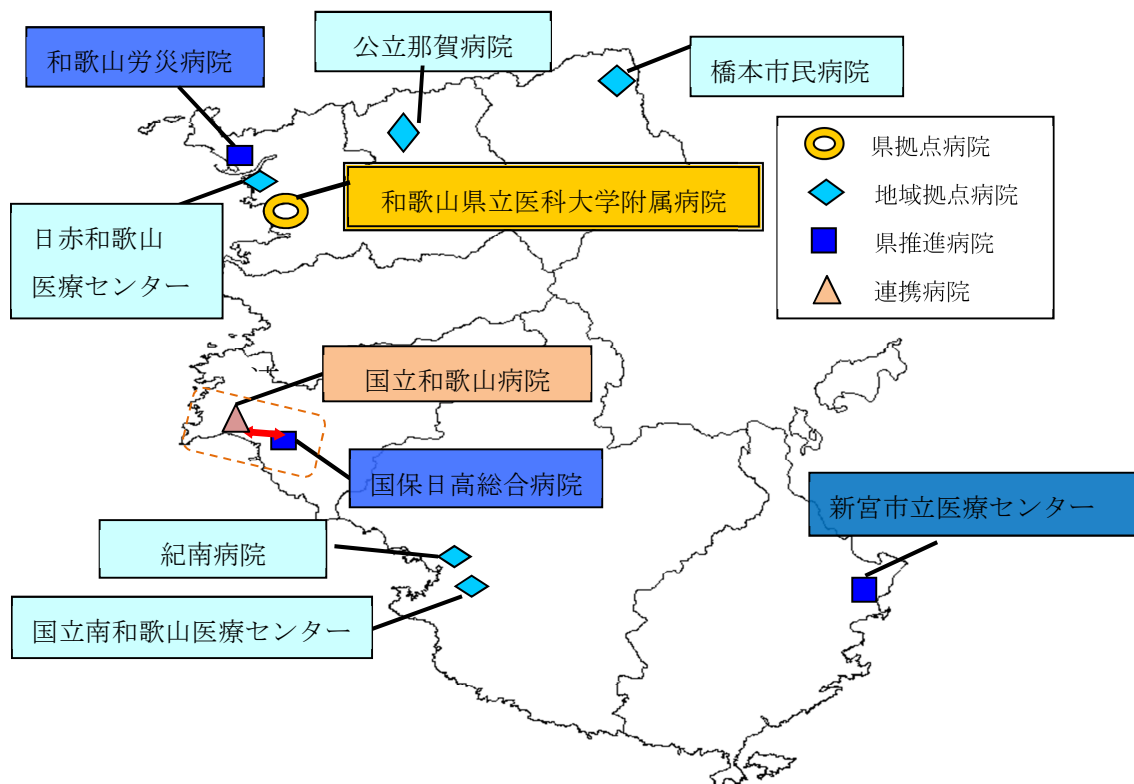
- ア 拠点病院が実施する専門的な医師等の育成のための化学療法や放射線療法、コミュニケーション技術の研修会の開催、緩和ケアや化学療法、がん登録等に関わる専門的な医療従事者の養成及び緩和ケアセンターについて支援を実施した。
- イ 国立研究開発法人国立がん研究センター等で開催された研修会に、拠点病院の看護師等が参加した。
- ウ 推進病院が実施する緩和ケアの研修会の開催や相談体制の充実等について支援を実施した。
- エ 新宮市立医療センターについて、推進病院の指定期間が満了することから、指定要件の審査を行い、指定の更新を行った。

##### （２）放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進

各種がん治療の副作用・合併症の予防軽減のためには、医科歯科連携による口腔ケアの推進などが必要であるため、地域の拠点病院と歯科診療所との緊密な連携を図り、医科歯科連携を推進すること等を目的に、地域の拠点となる公的病院の歯科口腔外科の設置について支援を実施した。

## 〈県内のがん診療連携拠点病院・がん診療連携推進病院〉

	保健医療圏	医療機関名
県がん診療連携拠点病院	和歌山	和歌山県立医科大学附属病院
地域がん診療連携拠点病院	和歌山	日本赤十字社和歌山医療センター
	那賀	公立那賀病院
	橋本	橋本市民病院
	田辺	紀南病院
		国立南和歌山医療センター
県がん診療連携推進病院	和歌山	和歌山労災病院
	御坊	国保日高総合病院
		(連携) 国立和歌山病院
	新宮	新宮市立医療センター





### (3) がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成

- ア がん専門医療者の充実を目指して、高い専門性と優れた看護実践能力をもっているがん看護専門看護師を目指す看護師が、日本看護協会の認定審査の受験資格を取得できるよう、平成26年度に県立医科大学の大学院保健看護学研究科博士前期課程にがん看護専門看護師コースを設置しており、平成28年度は1名が入学し、1名が修了した。
- イ 化学療法について、日進月歩で進む薬剤に対応するため、県がん診療連携協議会において、化学療法実務者研修会を2回開催し、専門的な知識の向上を図った。

### (4) がんと診断された時からの緩和ケアの推進

がんと診断された時から、がん患者やその家族が抱える様々な苦痛を軽減し、質の高い療養生活を送ることができるためには、がんの診断、治療、在宅療養など様々な場面において緩和ケアが切れ目なく実施される必要があるため、以下の施策を行った。

- ア 緩和ケアの推進には、がん診療に携わる全ての医療従事者が、緩和ケアの基本的な知識と技術を習得することが重要である。そのため、がんによる身体的、精神的な痛みやその対応、インフォームドコンセントやセカンドオピニオン等の説明、患者の視点を取り入れたコミュニケーション技術等を学ぶ緩和ケア研修会について、以下の施策を行った。

(ア) 拠点病院、推進病院、県がん診療連携協議会及び県で、研修会を10回開催し、医師187名、医師以外の医療従事者93名が修了した。

平成28年度末での累計修了者数は1,832名(医師1,130名、医師以外の医療従事者702名)となった。

(イ) 国の緩和ケア研修会の開催指針に準じ、研修プログラムの所要の改正を行った。

- イ 早期から緩和ケアを提供するため、拠点病院や推進病院等を中心にがん患者を対象とした「苦痛のスクリーニング」を実施した。
- ウ 県立医科大学附属病院に設置している緩和ケアセンターについて、緊急緩和ケア病床の確保など、迅速かつ適切な緩和ケアを提供できる体制を支援した。
- エ 県がん診療連携協議会において、エンド・オブ・ライフ・ケア(人が人生を終える時期に必要とされるケア)に携わる看護師が患者・家族に必要なケアを包括的に学ぶ、ELNEC-Jコアカリキュラム看護

師教育プログラム研修会を開催し39名が参加した。

(5) 地域の医療・介護サービス提供体制の構築

拠点病院、推進病院、県がん診療連携協議会及び県で、緩和ケア研修会を10回開催し、医師187名、医師以外の医療従事者93名が修了した(再掲)。

(6) その他のがん医療体制の充実

ア がん治療において運動機能の改善や生活機能の低下予防に資するためには、がん患者に対する質の高いリハビリテーションに取り組む必要があることから、県がんリハ研修会実行委員会、県立医科大学附属病院が主催し、「平成28年度がんのリハビリテーション研修会 in 和歌山」を開催し80名が参加した。

期 間：平成29年1月7日～8日

場 所：県立医科大学高度医療人育成センター

イ 県のがん対策に役立てて欲しいと、平成26年度に海南市在住(当時)の県民の方から頂いた寄附金をもとに創設した、がんの先進医療を受ける患者に対して、その治療費(技術料)の2分の1(上限150万円)の補助を行うがん先進医療支援事業を引き続き実施した。

(7) 「本県に多いがん・難治性がん・希少がん」の対策

ア 肺がん、膵臓がん、肝臓がん対策

(ア) 県内27市町村が肝炎ウイルス検診の個別勧奨を実施した。

また、肝炎ウイルス検査については、各県立保健所及び県内約450か所の協力医療機関で、無料で受検できる体制を構築しており、364件実施した。

これらの結果、陽性者にはウイルス肝炎治療に係る専門医療機関を受診するよう保健所、検査実施医療機関を通じて指導している(再掲)。

(イ) がん検診として実施されている胸部エックス線検査に加えて、がん発見率が高いとされている低線量肺がんCT検査の費用の補助を4市町に対して実施した(再掲)。

また、同検査について、検診従事者の技術向上を目的に、研修会を開催した(再掲)。

イ 胃がん・大腸がん

(ア) 「ココロとカラダの健康フェア(再掲)」に出展し、大腸がん

関するクイズラリーや啓発物資の配布等を行った。

- (イ) 胃がん予防対策のため、40、45、50歳の希望者に対するピロリ菌検査にかかる費用の補助を、15市町に対して実施した（再掲）。
- (ウ) 胃がん内視鏡検診について、検診従事者の技術向上を目的に、研修会を開催した（再掲）。

#### ウ 女性に特有のがん対策

- (ア) 全市町村において、子宮頸がん及び乳がん検診の個別受診勧奨を実施した（再掲）。
- (イ) 若年層への普及啓発として、和歌山大学で開催された和大祭で、まんがを使った子宮頸がん検診の啓発を実施した（再掲）。

開催日：平成28年11月19日

場 所：和歌山大学構内

- (ウ) 子宮頸がん検診について、検診実施要領の改正を行った（再掲）。
- (エ) 子宮頸がんについて、精密検査協力医療機関登録要領の制定を行い、子宮頸がん及び乳がんの精密検査協力医療機関を「わかやまがんネット」に掲載した（再掲）。
- (オ) 乳がん検診について、検診従事者の技術向上を目的に、研修会を開催した（再掲）。

#### エ 小児がん対策

- (ア) 県難病・子ども保健相談支援センターにおいて、小児がん患者やその家族が地域で安心して暮らせるよう、療養生活に関する相談や医療・福祉制度、家族会に関する情報の提供を行った。

相談件数：8件（面接3件、電話5件）

- (イ) 県難病・子ども保健相談支援センターにおいて、病気や療養生活について、小児がん患者やその家族が情報共有し、仲間づくりができるよう小児がん講演会を開催した。

開催日：平成29年1月14日

場 所：プラザホープ

参加者：35名

#### オ 骨髄移植等の推進

- (ア) 骨髄移植における問題や今後の普及啓発等について、平成29年2月23日に、骨髄移植対策懇話会を開催し意見交換を行った。また、献血併行型骨髄バンクドナー登録会（以下、「献血並行型登録会」という。）等の開催時にリーフレットやティッシュ等の配布を実施した。

(イ) 骨髄提供希望者の登録機会を増やすため、以下の施策を実施した。  
結果527名の登録あった。

- 献血併行型登録会を88回（内、休日開催は25回）実施し、501名が登録した。
- 各県立保健所（支所）及び土日祝日に対応可能な和歌山駅前献血ルームに骨髄バンクドナー登録窓口を設置し、26名が登録した。

(ウ) 若年層の登録者増加推進のため、県内大学等で献血並行型登録会を10回開催するとともに、県内大学生13名を対象に、骨髄バンクドナー登録会説明員養成研修会を実施した。

## 5 がん登録

がん対策には、がんに関係する情報の正確な把握が不可欠で、その情報から課題を見つけ、がん対策に反映させる仕組みが重要である。

そのため、がんの罹患率及び生存率等の推計等、がんに関する詳細な情報を収集・解析することにより、今後のがん対策を効果的に推進するため、以下の施策を講じた。

(1) 平成23年から開始している、地域がん登録事業において、罹患率のより正確な把握のために、遡り調査を実施し、平成25年（2013年）の罹患集計において国立がん研究センター罹患モニタリング集計が定める精度基準A（全国推計に利用）を満たした。

(2) 平成28年1月1日に「がん登録等の推進に関する法律」が施行され、全病院と県が指定した診療所が罹患者を届け出る、全国がん登録が開始された。

ア 健康推進課ホームページ内に開設している「わかやま がんネット」に、全国がん登録についての情報を掲載した。

イ 県内の医療機関に対して法の趣旨や罹患者の届出手続等の周知を図るため、県がん診療連携協議会がん登録部会が研修会を開催し、32名が受講した。

開催日：平成29年2月9日

場 所：県立医科大学

ウ 効率的な予後調査体制の構築や病院内で実施される院内がん登録を推進することで、がん登録の精度向上を行うため、県がん診療連携協議会がん登録部会が、院内がん登録の実務者研修を実施し11名が受

講じた。

開催日：平成29年2月28日

場 所：県立医科大学

工 全国がん登録に届出を行う診療所について、10カ所を指定した。

累計指定数：19カ所

## 6 がん研究

がんの発病予防の解明、効果的ながんの予防、診断及び治療に関する方法の開発その他の研究について情報を収集するとともに情報を広く公開し、がん研究の推進に取り組むため、以下の施策を講じた。

- (1) 5 がんの検診について、各市町村のプロセス指標や事業評価の状況を各市町村に情報提供した（再掲）。
- (2) 平成23年から開始している、地域がん登録事業において、罹患率のより正確な把握のために、遡り調査を実施し、平成25年（2013年）の罹患集計において国立がん研究センター罹患モニタリング集計が定める精度基準A（全国推計に利用）を満たした（再掲）。
- (3) 先進医療やBNCTなどの最先端のがん医療について、現在、大学や医療機関で行われている治療や研究の現状など状況の把握に取り組んだ。

また、県立医科大学等で、がんの発病予防の解明、効果的ながんの予防、診断及び治療に関する方法の開発やその他の研究について、それぞれ取り組んでいる。

## 7 がんに関する相談支援と情報提供

がん患者やその家族は、病状、医療機関や治療方法の選択、仕事と治療の両立など様々な不安を抱えていることから、拠点病院や推進病院の相談支援体制の強化を図るとともに、医療機関の情報など情報提供体制の強化のため、以下の施策を講じた。

- (1) がん患者やその家族や地域の方々から、がんの治療やセカンドオピニオンをはじめとする、療養生活全般の質問・相談を受けるなど、がんに関する情報提供を行う目的で各拠点病院や推進病院に設置しているがん相談支援センターについて支援した。

- (2) 健康推進課ホームページ内に開設している「わかやま がんネット」をリニューアルし、よりわかりやすい情報提供を行った（再掲）。
- (3) がんに関する正しい知識の普及啓発及び情報窓口の周知を目的に開催された、市民公開セミナー「「がん」の時代を生きる」を後援するとともに、講演を行った（再掲）。
- (4) がん相談支援センターの認知度向上の目的に実施された、ラジオドラマ「明日への扉」を後援した（再掲）。
- (5) がん相談支援センターの周知を図るため、和歌山県がん診療連携協議会及びがん診療連携拠点病院が共同して「ふれあい人権フェスタ2016」に出展し、がん相談を行った。  
開催日：平成28年11月19日  
場 所：和歌山ビッグホエール
- (6) 和歌山県がん診療連携協議会において、「がん相談支援センター」の相談員の資質向上を図るとともに、がん患者団体等との連携を推進するため、がん患者サロン勉強会を開催し25名が参加した。  
開催日：平成28年12月16日  
場 所：県立医科大学

## 8 がん患者の就労を含めた社会的な問題

がん患者とその家族は、社会とのつながりを失うことに対する不安や仕事と治療の両立が難しいなど社会的苦痛を抱えている。

がん患者とその家族の精神心理的苦痛・社会的苦痛を和らげるため、新たに、がん患者とその家族を社会全体で支える取組を実施し、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」を実現することを目標として、以下の施策を講じた。

- (1) 健康推進課ホームページ内に開設している「わかやま がんネット」をリニューアルし、よりわかりやすい情報提供を行った（再掲）。
- (2) 市町村実施のがん検診推進事業で同封するがん検診手帳に、相談支援センターの住所・連絡先等の情報が掲載できるよう、市町村に情報提供を行った。

- (3) 独立行政法人労働者健康安全機構が実施する「事業場における治療と職業生活の両立支援にかかる事業」について、両立支援促進員の選定や事業周知等で連携を行った。  
また、労働者健康安全機構では両立支援促進員を委嘱し、ガイドライン周知のための説明会を4回実施した。
- (4) 和歌山公共職業安定所が実施する、長期にわたる治療等により離職又は転職を余儀なくされた方で、就職を希望する方に対して就職支援を行う「長期療養者就職支援事業」について、連絡協議会に出席し、関係部署の担当者間の連携を確認するとともに、県立医科大学附属病院と和歌山公共職業安定所が協定を締結し、就職支援ナビゲーターによる職業相談・職業紹介を実施した。

## 9 その他

県のがんの予防や対策に対する検討等のため、以下の委員会等を開催した。

- (1) 和歌山県がん対策推進委員会  
開催日：平成29年2月14日  
内 容：・がん対策における国等の動向報告  
・県のがん対策に対する平成28年度及び平成29年度の取組
- (2) 和歌山県がん対策推進委員会 和歌山県がん診療連携推進病院検討部会  
開催日：平成28年10月28日  
内 容：・和歌山県がん診療連携推進病院指定更新  
・和歌山県がん診療連携推進病院指定指針改正
- (3) 和歌山県がん対策推進委員会 がん登録運営部会  
開催日：平成29年3月29日  
内 容：・がん登録データの利活用について  
・和歌山県地域がん登録事業実施要綱改正
- (4) 和歌山県生活習慣病検診管理指導協議会 子宮がん部会  
開催日：平成28年7月30日  
内 容：・県内の子宮頸がん検診における実施状況報告と精度管理等

- 子宮頸がん検診実施要領改正
- 子宮頸がん精密検査協力医療機関登録要領作成

(5) 和歌山県生活習慣病検診管理指導協議会 肺がん部会

開催日：平成28年10月29日

- 内 容：・ 県内の肺がん検診における実施状況報告と精度管理等
- 肺がん検診実施要領改正
  - 肺がんCT検診事業における実施状況報告等

(6) 和歌山県生活習慣病検診管理指導協議会 胃がん部会

開催日：平成29年2月1日

- 内 容：・ 県内の胃がん検診における実施状況報告と精度管理等
- 胃がん検診実施要領改正

(7) 和歌山県感染症対策委員会 肝炎対策部会

開催日：平成29年3月13日

- 内 容：・ 肝疾患に関する専門医療機関の選定について
- 和歌山県における肝炎対策について

(8) 健康わかやま推進提言委員会

開催日：平成28年7月9日、平成28年10月22日  
平成29年1月23日、平成29年3月11日

- 内 容：・ 健康や医療に関するデータの分析・評価
- 健康づくりを推進するための施策検討
  - 健康わかやま推進に関する報告書作成



〈和歌山県内のがん相談支援センター〉

機関名	所在地	電話番号	対応日・時間
和歌山県立医科大学 附属病院 がん相談支援センター	和歌山市紀三 井寺 811-1	073-441-0778 (直通)	平日 9時00分～17時00分
日本赤十字社 和歌山医療センター 患者総合支援センター	和歌山市小松 原通 4-20	073-422-4171 (代表)	平日 9時～17時30分
公立那賀病院 相談支援センター	紀の川市打田 1282	0736-78-3892 (直通)	平日 9時～16時
橋本市民病院 がん相談支援室	橋本市小峰台 2-8-1	0736-34-6116 (直通)	平日 9時～16時
紀南病院 がん相談支援センター	田辺市新庄町 46-70	0739-22-5118 (直通)	平日 8時30分～17時15分
国立病院機構 南和歌山医療センター がん相談支援センター	田辺市たきない 町 27-1	0120-92-8160 (直通)	平日 8時30分～17時
和歌山労災病院 患者サポートセンター	和歌山市木ノ本 93-1	073-451-3181 (代表)	平日 8時30分～16時30分
国保日高総合病院 相談支援センター	御坊市藺 116-2	0738-24-1786 (直通)	平日 9時～16時
新宮市立医療センター 地域医療連携室	新宮市蜂伏 18-7	0735-31-3333 (代表)	平日 8時30分～17時

### Ⅲ 計画に掲げる全体目標の達成状況

第2次和歌山県がん対策推進計画では、全体目標をがんの年齢調整死亡率（75歳未満）の減少とし、国の目標と同じ73.9（減少率25%）を目指してきた。

本県の平成27年のがんの年齢調整死亡率（75歳未満）は80.3となり、目標値には届かなかったが、減少率18.5%は全国の減少率を上回っており、全国の死亡率との差は、ここ10年間で縮まってきている。

	H17		H27（目標）		H27		
	年齢調整死亡率	全国順位	年齢調整死亡率	減少率	年齢調整死亡率	減少率	全国順位
和歌山県	98.5	ワースト5位	73.9	25%	80.3	18.5%	ワースト11位
全国	92.4	—	73.9	20%	78.0	15.6%	—

※ 年齢調整死亡率は人口10万対の数値

## 《參考資料》

## 第2次和歌山県がん対策推進計画（H25年度～H29年度）

### 全体目標

がんによる死亡数の減少  
(年齢調整死亡率(75歳未満) 98.5(17)→73.9(17))

がんになって安心して暮らせる支援体制の構築

### 1 がんの予防

#### 施策

- 生活習慣改善対策**  
・がんに関連する食生活や運動習慣など生活習慣の改善
- たばこ対策**  
・受動喫煙防止や禁煙支援などたばこ対策の推進
- 感染に起因するがんの対策**  
・子宮頸がんの予防、肝炎対策

#### 個別目標

- 【生活習慣改善対策】
- 野菜摂取量(成人1日)：350g以上【5年以内】  
果物摂取量(成人1日)：200g以上【5年以内】
  - 食塩摂取量(成人1日)：10g未満【5年以内】
  - 重度飲酒者割合：成人男性4%以下、成人女性1.5%以下【5年以内】
  - 運動習慣者：成人男性39%、成人女性35%【5年以内】
- 【たばこ対策】
- 喫煙率(成人)：12%以下【10年以内】
  - 喫煙率(未成年)：0%【10年以内】
  - 受動喫煙(行政機関・医療機関)：0%【10年以内】
  - 受動喫煙(家庭)：3%【10年以内】
  - 受動喫煙(飲食店)：1.5%【10年以内】
  - 受動喫煙(職場)：0%【8年以内】
- 【感染症対策】(新)
- 感染症に起因するがんへの対策を推進することにより、がんを予防

### 2 がんの早期発見

#### 施策

- 〇検診受診率の向上
- ・市町村で連携した効果的な受診勧奨(新政策)
  - ・事業所でのがん検診受診率向上促進と受診勧奨(新)
  - ・市町村が行うがん検診の精度管理と事業評価
  - ・がん条例における市町村・県民・医療関係者、事業者の役割の広げと啓発

#### 個別目標

- ①各がん検診受診率：50%以上(胃・肺・大腸は40%)【5年以内】
- ②精密検査受診率：90%【5年以内】
- ③全ての市町村が精度管理・事業評価を実施。科学的根拠に基づく検診を実施。【5年以内】

### (新) 3 がん教育・普及啓発

#### 施策

- 1 がんに関する正しい知識を深める教育の充実
- 2 がんに関する普及啓発活動

#### 個別目標

- ・子どもの頃から、がんに関する正しい知識やがん患者に対する正しい認識を深める教育の充実
- ・県民一人ひとりが、喫煙、食生活等の生活習慣が健康に及ぼす影響等がんに関する正しい知識を深め、積極的にがん検診を受診するよう、普及啓発活動を推進
- ・拠点病院等医療機関の情報提供の推進

### 4 がん医療

#### 施策

- 1 放射線療法、化学療法、手術療法の変化する充実とチーム医療の推進(新)  
・チーム医療の推進、医療連携の推進
- 2 がん医療に携わる専門的医療従事者の養成(新)  
・専門医療従事者の育成、拠点病院等専門医療従事者体制の公表
- 3 がんと診断された時からの緩和ケアの推進(医療従事者)  
・がんに係わる医師、医療従事者への緩和ケア研修の推進
- 4 地域の医療・介護サービス体制の充実(新)  
・拠点病院と地域の連携による在宅医療の推進
- 5 その他のがん医療体制の充実(新)  
・拠点病院の診療診断、リハビリテーション強化
- 6 「本県に多いがん・難治性がん・若さがん」の対策(新)  
・小児がん対策、肺・肝臓・膵臓・胃・大腸がんなど個別がん対策  
・女性に特有のがん(乳・子宮がん)の対策、骨髄移植の推進

#### 個別目標

- ①全拠点病院等にチーム医療体制を整備【3年以内】
- ②拠点病院のがん専門医、専門医療従事者の配備体制公表【5年以内】
- ③がん診療に携わる全医療従事者が緩和ケアの知識を習得【5年以内】
- ④拠点病院のがん診療に係る全医師が緩和ケア研修を修了【5年以内】
- ⑤拠点病院を中心に、緩和ケアを迅速に提供できる診療体制を整備【3年以内】
- ⑥緩和ケアチームや緩和ケア外来など緩和ケア提供体制の整備【3年以内】
- ⑦患者の居住する地域にかかわらず等しく質の高いがん医療を受けられるよう拠点病院の機能をさらに充実
- ⑧患者が住み慣れた家庭や地域での療養を選択できるよう在宅医療・介護サービス提供体制の構築

### 5 がん登録

#### 施策

- 1 地域がん登録の推進  
地域がん登録協力医療機関の推進
- 2 院内がん登録の推進  
院内がん登録協力医療機関の推進

#### 個別目標

- ・効果的な予防後援体制の構築や院内がん登録を推進する医療機関の増加を通して、がん登録の精度を向上【5年以内】

### (新) 6 がん研究

#### 施策

- 〇がんの発症原因・予防・治療に関する情報収集

- ・がん登録推進等がんの地域特性に関する研究の情報収集
- ・効果的ながん予防などがんに関する研究の情報収集
- ・がんの発症原因の解明、効果的ながんの予防、診断及び治療に関する方法の開発その他の研究について情報を収集するとともに、情報を広く公開し、研究を推進する。

### 7 がんに関する相談支援と情報提供

#### 施策

- 1 相談体制の充実  
拠点病院の相談支援センターの機能強化
- 2 情報提供体制の充実  
拠点病院の情報提供体制の充実

#### 個別目標

- ・患者とその家族の悩みや不安を汲み上げ、患者とその家族にとりより活用しやすい相談支援体制を実現

### (新) 8 がん患者の就労を含めた社会的な問題

#### 施策

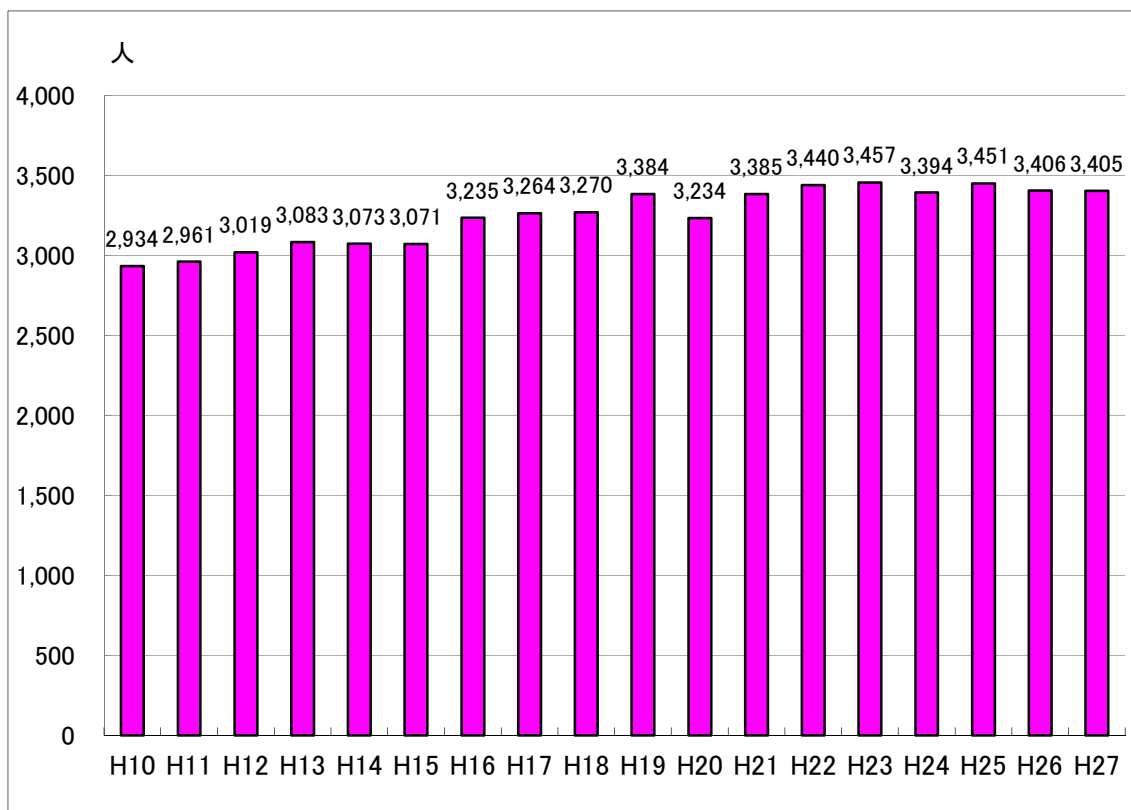
- 〇就労を含めた様々な問題への相談体制の構築

- ・拠点病院の相談支援センターの機能強化
- ・個別目標
- ・拠点病院の相談支援センターにおいて、がん患者の就労を含めた様々な社会的問題に対応できる相談体制を構築

### 分野別施策と個別目標

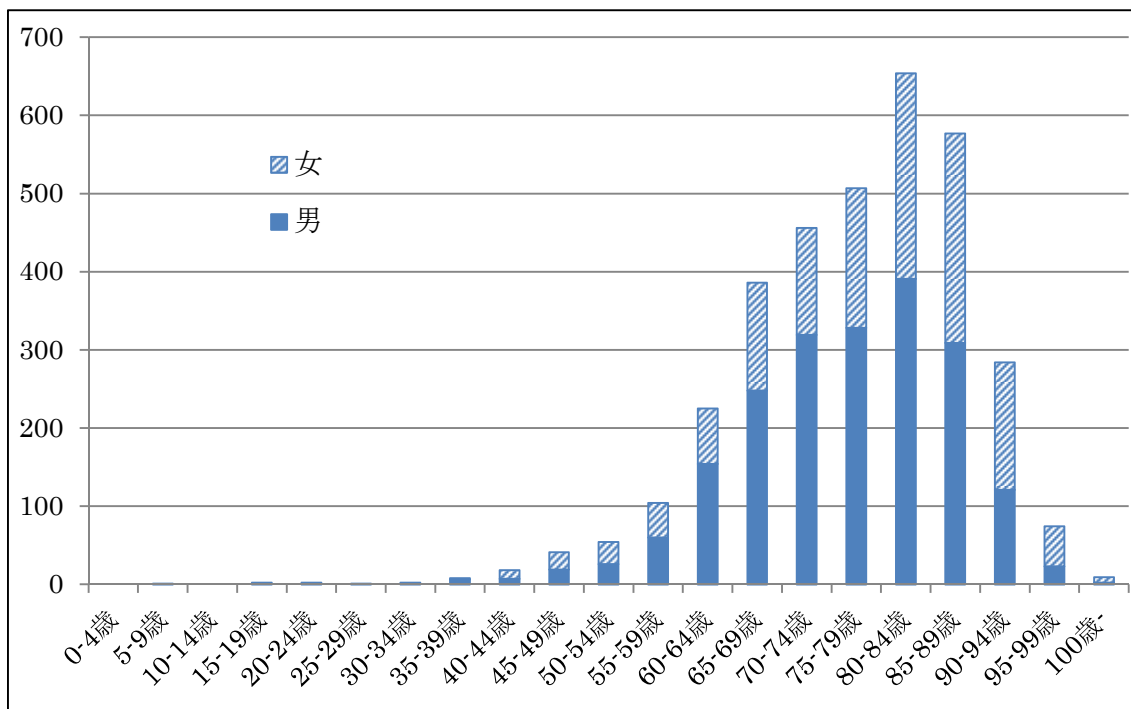


〈悪性新生物（がん）死亡数年次推移（和歌山県）〉



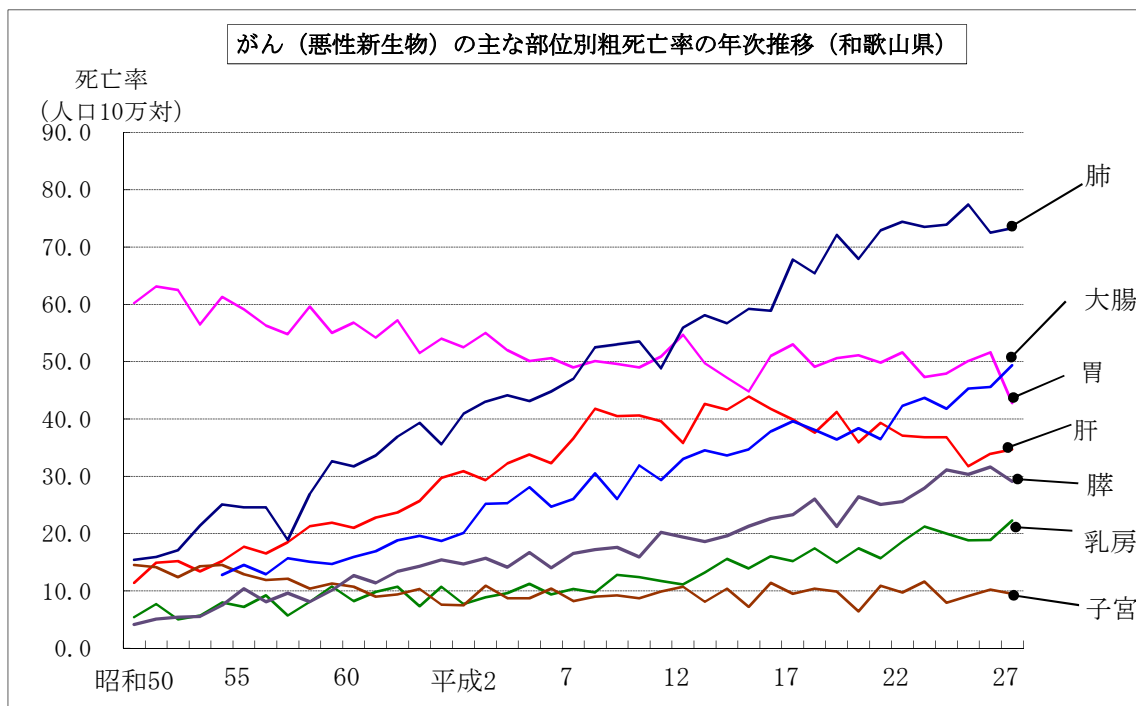
（出典：平成27年人口動態統計（確定数））

〈年齢5歳階級別悪性新生物（がん）死亡者数（和歌山県 平成27年）〉



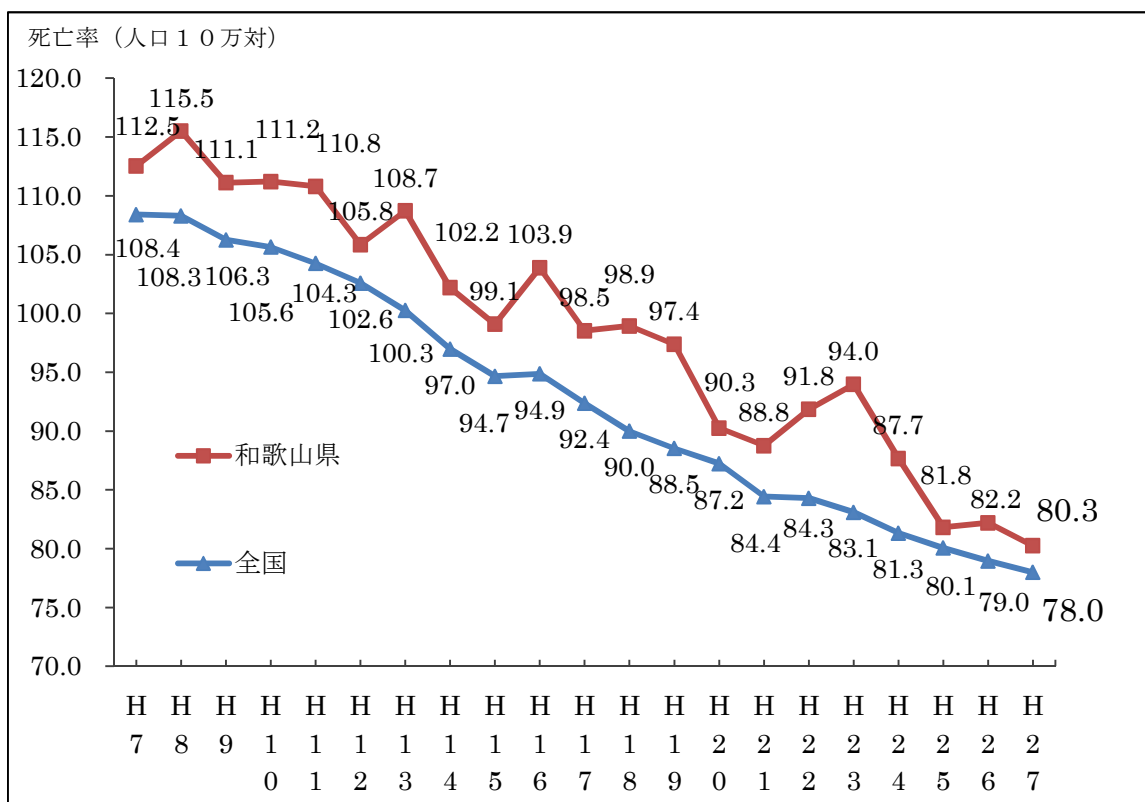
（出典：平成27年人口動態統計（確定数））

〈悪性新生物（がん）の主な部位別粗死亡率の年次推移（和歌山県）〉



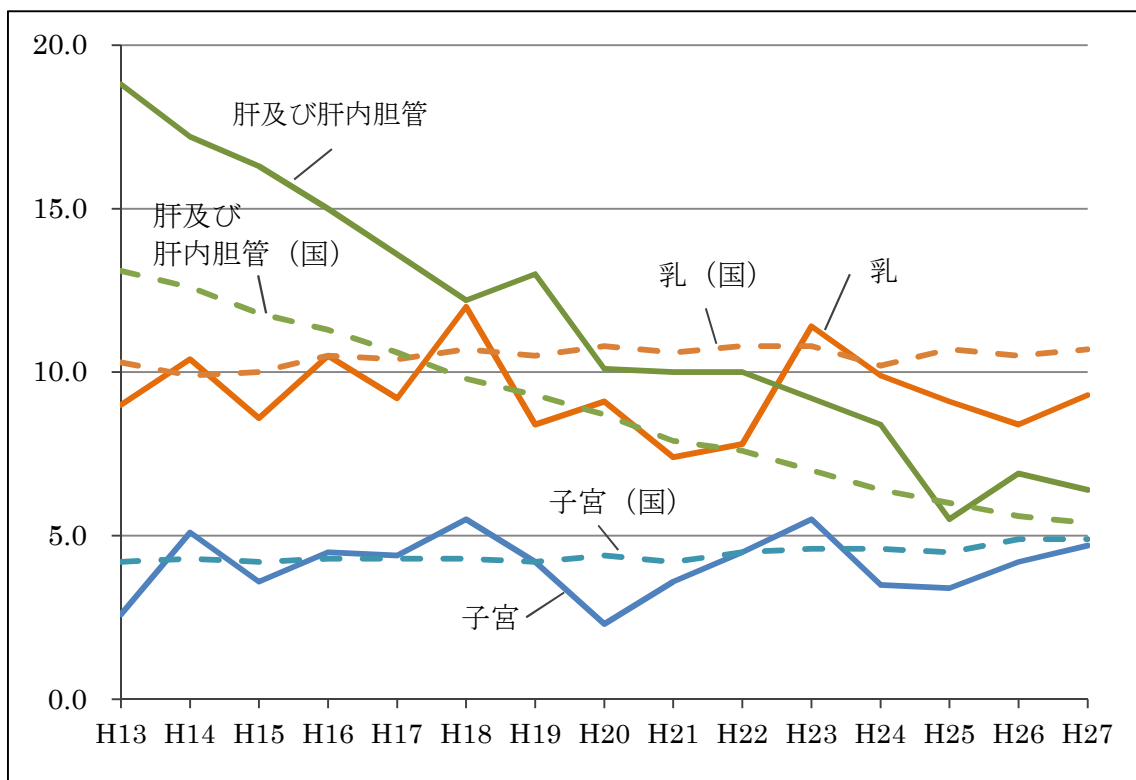
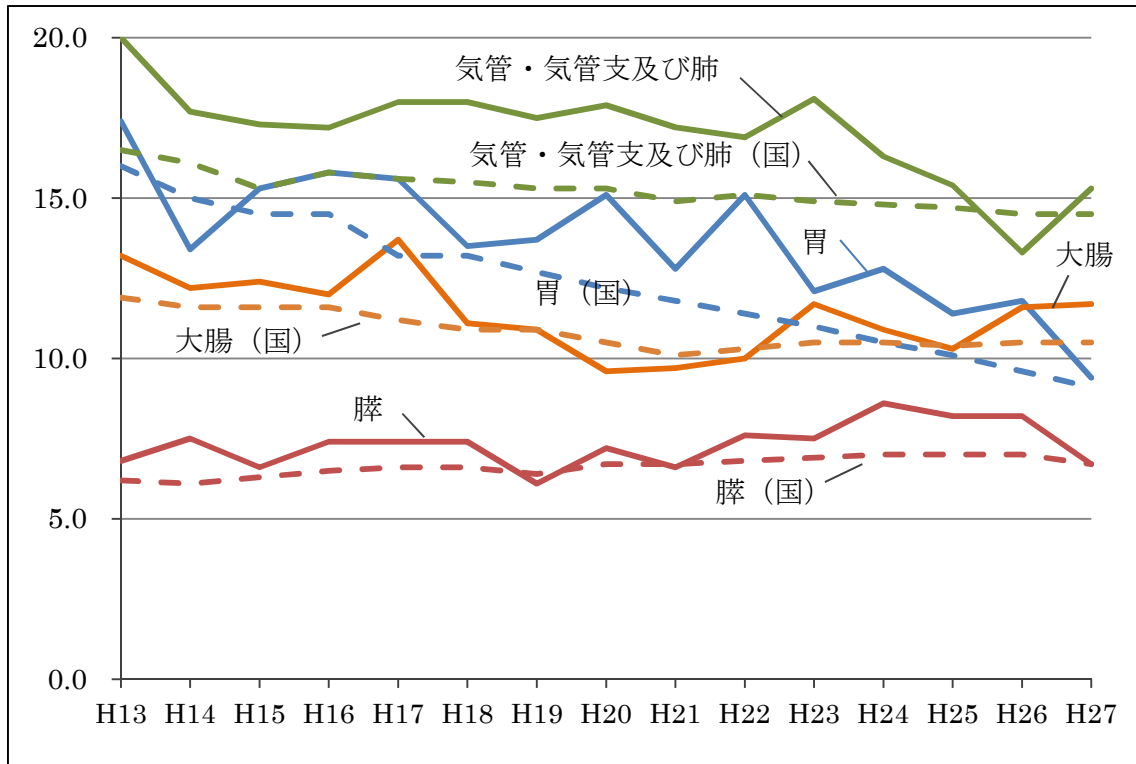
(出典：平成27年人口動態統計(確定数))

〈悪性新生物（がん）75歳未満年齢調整死亡率 年次推移（男女計）〉



(出典：国立がん研究センター)

〈悪性新生物（がん）の75歳未満部位別年齢調整死亡率の年次推移（和歌山県）〉



※ 死亡率は人口 10 万対の数値

(出典：国立がん研究センター)



〈悪性新生物（がん）の75歳未満部位別年齢調整死亡率の年次推移〉

（率・ワースト順位）

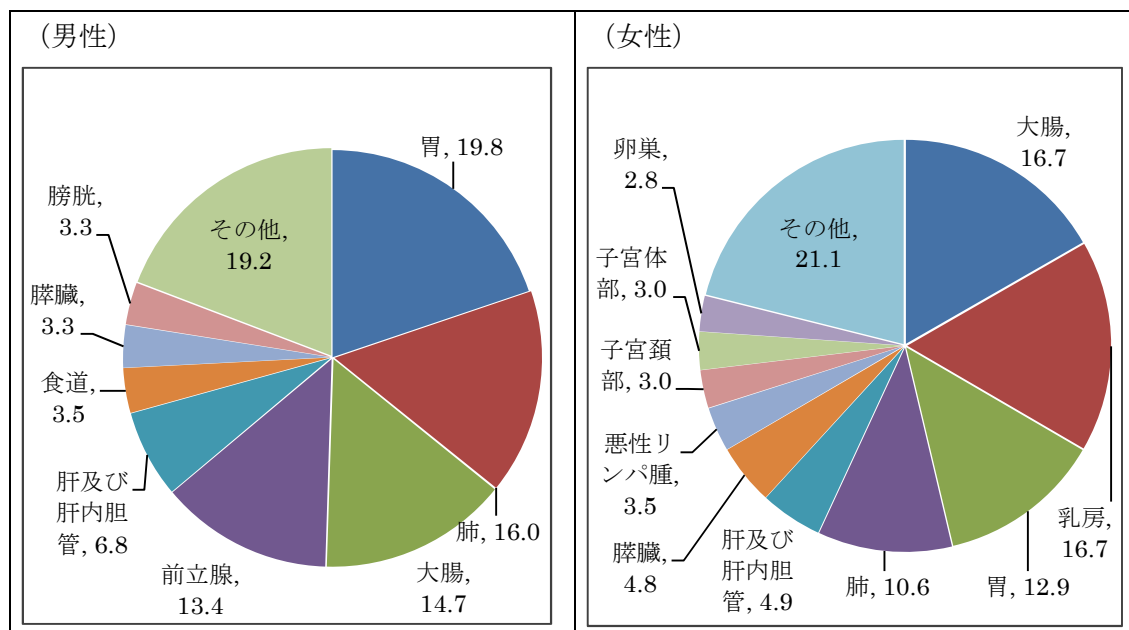
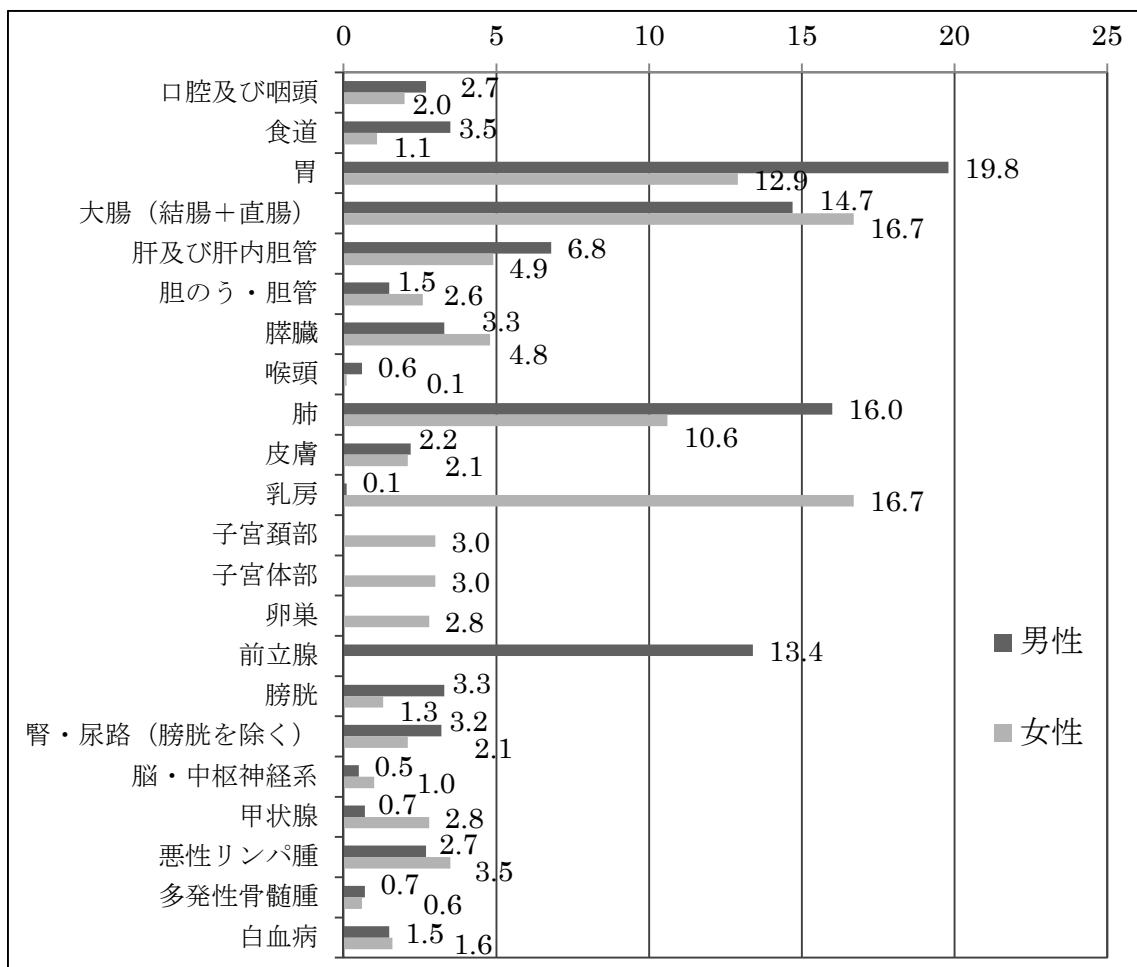
		全部位		食道		胃		肝及び 肝内胆管		膵		気管・気管支 及び肺		乳房		子宮		白血病		大腸	
		死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位
平成 27年 (2015)	和歌山県	80.3	11	4.0	3	9.4	18	6.4	16	6.7	24	15.3	8	9.3	32	4.7	25	2.2	26	11.7	5
	全 国	78.0		3.2		9.1		5.4		6.7		14.5		10.7		4.9		2.3		10.5	
平成 26年 (2014)	和歌山県	82.2	9	3.3	15	11.8	7	6.9	10	8.2	3	13.3	38	8.4	42	4.2	33	2.4	18	11.6	4
	全 国	79.0		3.2		9.6		5.6		7.0		14.5		10.5		4.9		2.3		10.5	
平成 25年 (2013)	和歌山県	81.8	11	2.7	32	11.4	8	5.5	28	8.2	1	15.4	11	9.1	35	3.4	44	2.3	24	10.3	22
	全 国	80.1		3.3		10.1		6.0		7.0		14.7		10.7		4.5		2.4		10.4	
平成 24年 (2012)	和歌山県	87.7	4	3.0	30	12.8	3	8.4	7	8.6	2	16.3	3	9.9	22	3.5	43	1.8	43	10.9	16
	全 国	81.3		3.4		10.5		6.4		7.0		14.8		10.2		4.6		2.3		10.5	
平成 23年 (2011)	和歌山県	94.0	2	3.9	10	12.1	12	9.2	4	7.5	7	18.1	3	11.4	10	5.5	6	2.3	27	11.7	6
	全 国	83.1		3.6		11.0		7.0		6.9		14.9		10.8		4.6		2.5		10.5	
平成 22年 (2010)	和歌山県	91.8	4	3.4	25	15.1	2	10.0	6	7.6	5	16.9	5	7.8	47	4.5	23	3.2	11	10.0	25
	全 国	84.3		3.7		11.4		7.6		6.8		15.1		10.8		4.5		2.6		10.3	
平成 21年 (2009)	和歌山県	88.8	9	3.8	20	12.8	12	10.0	8	6.6	28	17.2	4	7.4	46	3.6	38	3.2	7	9.7	26
	全 国	84.4		3.7		11.8		7.9		6.7		14.9		10.6		4.2		2.5		10.1	
平成 20年 (2008)	和歌山県	90.3	9	3.7	22	15.1	3	10.1	10	7.2	10	17.9	2	9.1	40	2.3	47	2.4	27	9.6	33
	全 国	87.2		3.9		12.2		8.7		6.7		15.3		10.8		4.4		2.6		10.5	
平成 19年 (2007)	和歌山県	97.4	3	4.3	9	13.7	12	13.0	5	6.1	35	17.5	4	8.4	42	4.2	21	3.0	11	10.9	17
	全 国	88.5		4.0		12.7		9.3		6.4		15.3		10.5		4.2		2.6		10.9	
平成 18年 (2006)	和歌山県	98.9	2	2.9	39	13.5	22	12.2	8	7.4	1	18.0	2	12.0	6	5.5	2	3.0	12	11.1	17
	全 国	90.0		3.9		13.2		9.8		6.6		15.5		10.7		4.3		2.7		10.9	
平成 17年 (2005)	和歌山県	98.5	5	3.3	32	15.6	4	13.6	8	7.4	5	18.0	3	9.2	33	4.4	16	2.6	27	13.7	1
	全 国	92.4		3.9		13.2		10.6		6.6		15.6		10.4		4.3		2.7		11.2	
平成 16年 (2004)	和歌山県	103.9	3	3.3	8	15.8	11	15.0	7	7.4	5	17.2	4	10.5	13	4.5	17	3.0	13	12.0	12
	全 国	94.9		3.9		14.5		11.3		6.5		15.8		10.5		4.3		2.7		11.6	
平成 15年 (2003)	和歌山県	99.1	9	4.8	35	15.3	21	16.3	4	6.6	15	17.3	4	8.6	37	3.6	37	3.2	11	12.4	6
	全 国	94.7		4.1		14.5		11.8		6.3		15.3		10.0		4.2		2.9		11.6	
平成 14年 (2002)	和歌山県	102.2	4	3.3	26	13.4	38	17.2	5	7.5	2	17.7	6	10.4	13	5.1	6	2.4	39	12.2	10
	全 国	97.0		4.2		15.0		12.6		6.1		16.1		9.9		4.3		2.9		11.6	
平成 13年 (2001)	和歌山県	108.7	3	3.7	20	17.4	10	18.8	5	6.8	7	20.0	1	8.0	43	2.6	46	4.1	6	13.2	5
	全 国	100.3		4.2		16.0		13.1		6.2		16.5		10.3		4.2		3.0		11.9	

※ 死亡率は人口 10 万対の数値

（出典：国立がん研究センター）

〈部別・性別罹患割合(和歌山県 平成25年)〉

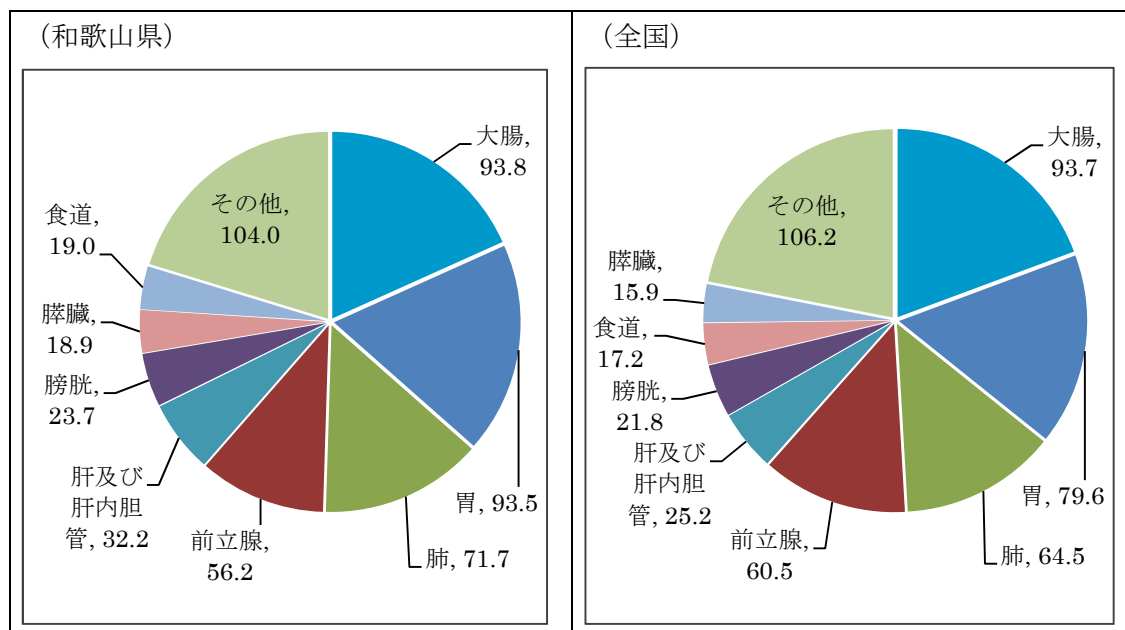
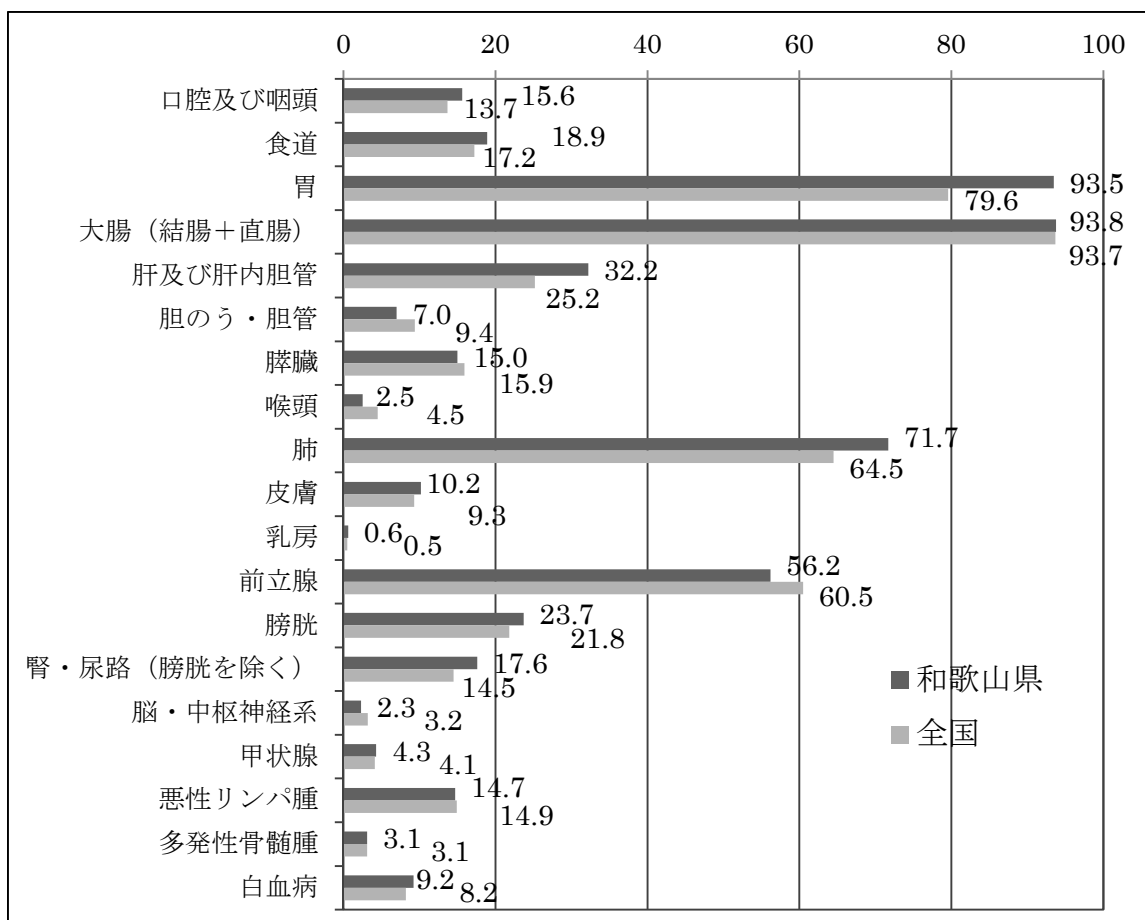
(%)



(出典：和歌山県がん登録事業)

〈部別年齢調整罹患率（男性）（平成25年（全国は平成24年））〉

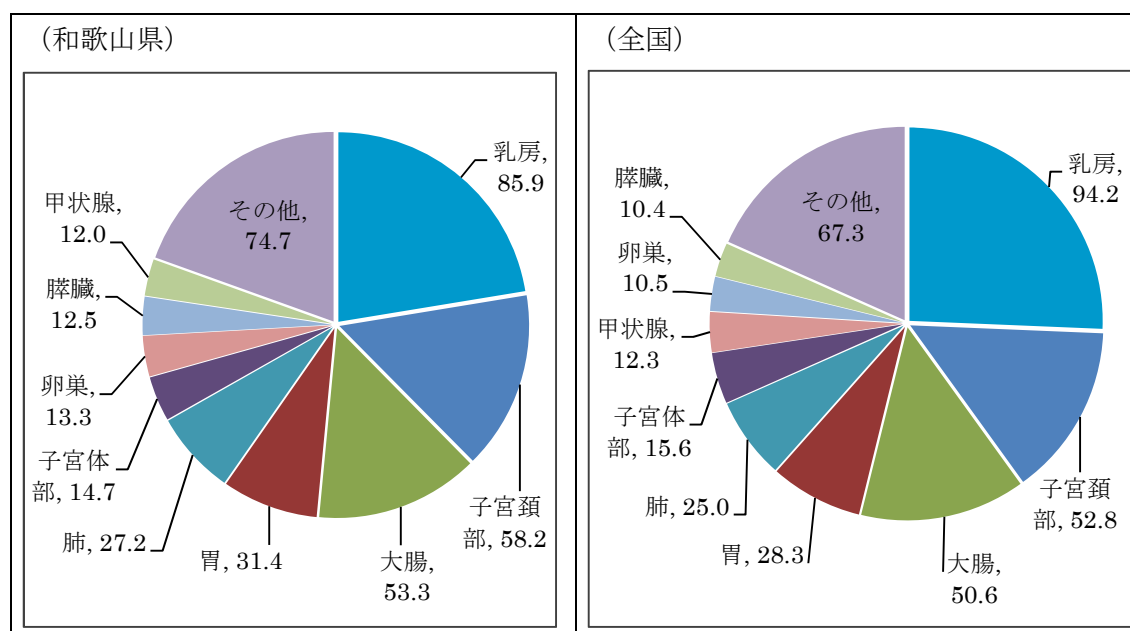
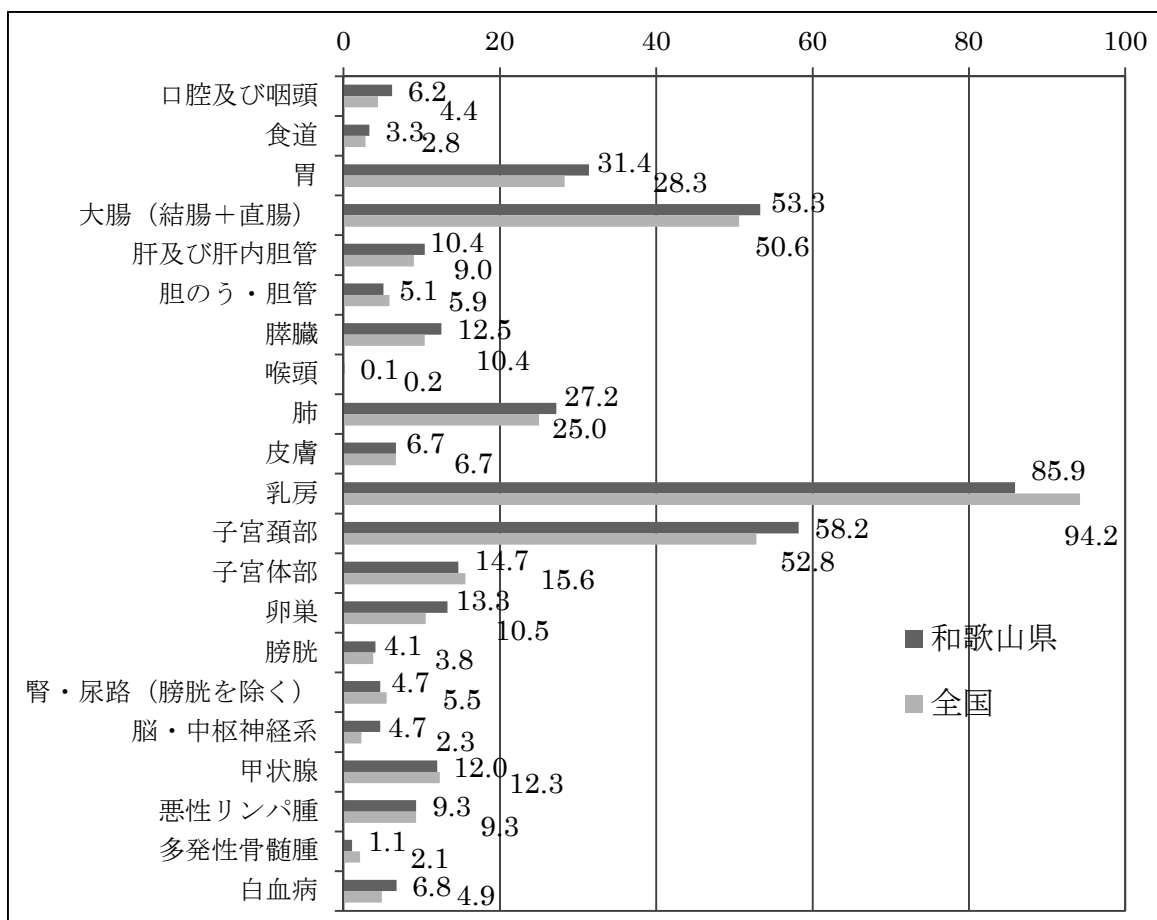
※人口10万対の数値



（出典：和歌山県がん登録事業、全国がん罹患モニタリング集計）

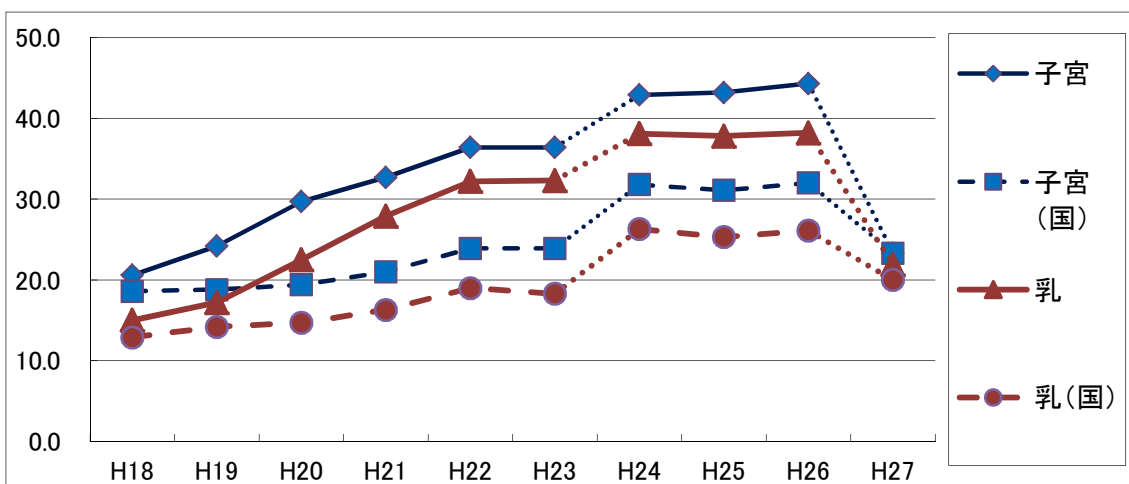
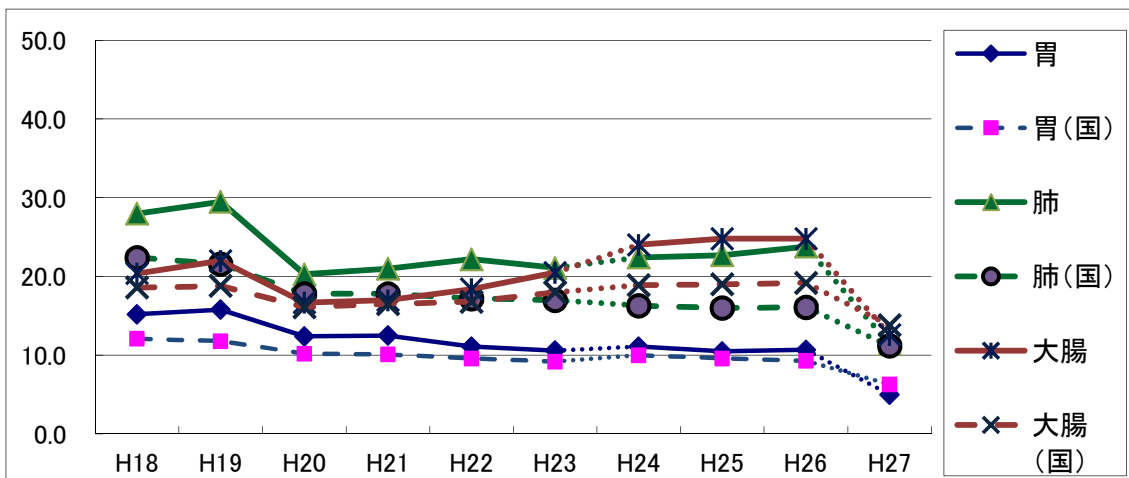
〈部位別年齢調整罹患率（女性）（平成25年（全国は平成24年））〉

※人口10万対の数値



（出典：和歌山県がん登録事業、全国がん罹患モニタリング集計）

〈がん検診受診率の推移[平成 24 年度以降 69 歳以下](和歌山県)〉 (％)



※ 算出方法の変更年度においては、グラフは連続しないため、点線で結んである。

- ・〔H23→H24〕対象年齢が全年齢から、69歳以下での算出に変更
- ・〔H26→H27〕算出分母における、就業者人口（農林水産業従事者を除く）の減算の廃止

〈がん検診受診率（69歳以下）の状況〉 (％)

		胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
H25	和歌山県	10.5	22.7	24.8	43.2	37.8
	全 国	9.6	16.0	19.0	31.1	25.3
H26	和歌山県	10.7	23.8	24.8	44.3	38.2
	全 国	9.3	16.1	19.2	32.0	26.1
H27	和歌山県	5.0	11.4	12.6	23.3	21.9
	全 国	6.3	11.2	13.8	23.3	20.0
(従来の計算 方法で推計)	(和歌山県)	(12.4)	(28.6)	(31.4)	(52.6)	(45.2)
	(全 国)	(13.1)	(23.3)	(29.0)	(43.0)	(35.0)

(出典：地域保健・健康増進事業報告)